2019年6月2日(日) 国文研基幹研究「地方協創によるアーカイブズ保全・活用システム構築に関する研究」及び人間文化研究機構広領域連携型基幹研究「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」国文研ユニット「人命環境アーカイブズの過去・現在・未来に関する双方向的研究」合同全体研究会

<u>震災被災地栄村における文化財保全活動を</u> どこまで普遍化できるか

- 中央学院大学/地域史料保全有志の会 白水 智一
- 1. 栄村と震災の概要
- 2. 栄村でのレスキュー活動の流れ
- 3. 栄材でのレスキュー活動の特徴
 - (1)文献・民具・考古の3分野での活動
 - (2)参加者の一体化(村民も外からの参加者も)
 - (3)地元の文化に親しみ、学びながらの活動
 - (4)さまざまな面で手作りでの活動
 - (5)地元・村民に成果を還元しながらの活動
- 4. 抱えている課題
 - (1)民具班の休止・参加者の減少
 - (2)終わらない史料整理
 - (3)古文書というハードル?
 - (4)地元人材が育たない
- 5. 普遍的要素は何か~長期継続段階に向けて~
 - (1)他分野への意識を全員が持てる仕組みや機会を設ける
 - (2)楽しむ意識